大阪城
2020 6/22 (月) 14080号
全港湾 西成分会
ごんわ 6647-4947

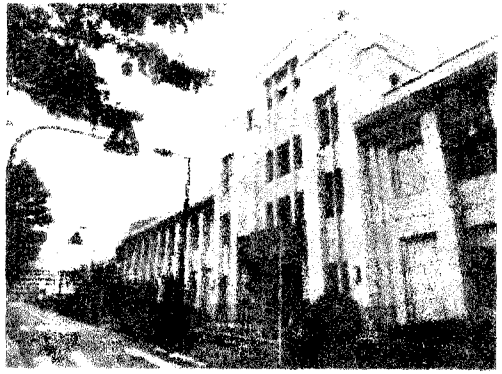
コロナウイルスとの戦いで、今のこの流れは、政治、経済の節目としては、来年の秋ごろまで続くかな、と思っていたら、どうも、今年の秋にはいろんなことがおこりそうだという。

(元)法相とその妻が検察につかまり、たしかに、安倍お気に入りの、マージャン検事が定年延長で検察トップになれば、事件はあやふやで、逮捕まではいかなかったかなって、そのあたりのカラクリが、政治勘のにぶい人間にも、思いいたってきている。

いろんなことが、目には見えずとも、水面下で、動き煮詰ってきているという。国会は終ったが、安倍・麻生(対)菅、二階、石破とかの対立も生れてきているとかいっている。たしかに、何が生れてきてもおかしくない。

11/3(火)トランプも再選はないかもしれない。その動きと、条件がふえている。北朝鮮は、再選なし、トランプを、国家としては相手にせずと、体制を早早とりなおしたようだ。人は気づかずとも、政治の舞台や土台の条件は、すでに変化しているのかもしれない。7/5(日)、都知事選の票の出方は、流れをうらなう一つのデータにはなるかもしれない。

おととい(6/20)閉館報告集会があり、参加してきました。



リバティおおさか休館へ　消える人権運動の象徴　別の場所で再開目指す地域のランドマークともなってきた　　毎日新聞

大阪人権博物館＝大阪市浪速区で、戸田栄撮影

コロナ禍の中、日本で唯一の人権問題の総合博物館として国内外の来館者を集めてきた大阪人権博物館（リバティおおさか）＝大阪市浪速区浪速西＝が、ひっそりと人権の故地での35年の歴史の幕を閉じようとしている。同館は存続を懸けた大阪市との裁判闘争の末、2022年に別の場所での再開を目指して6月1日から休館する。5月末には、しばしのお別れの無料一般公開などをする予定だったが、実施は困難な状況だ。

同館は大阪府と大阪市が全面的に支援し、1985年に大阪人権歴史資料館として出発し、95年に大阪人権博物館と改称してリニューアルオープンした。

大阪人権博物館が移転へ　明け渡し訴訟で市と和解　　時事通信配信

部落問題などの資料収集や展示をしている大阪人権博物館（大阪市浪速区）に、市が立ち退きなどを求めた訴訟があり、大阪地裁で19日、和解が成立した。来年6月末までに建物を明け渡すことを条件に、市が賃料約1億9000万円を免除し、所蔵品を保管する施設を3年間無償で提供する。　同博物館の石橋武理事長は、2年後に新しい場所で再開させる意向を示した。松井一郎市長は「協力や連携の申し込みがあれば、市民が納得できる内容かを判断し、対応する」とコメントした。

釜ヶ崎との縁も深く資料も展示されたこともあります。